



月刊美術 2019年2月号

開運アート特集にて

樋口ひろ子さんをご紹介いただきました



吉祥アート

七福神と宝船

ネパールで学んだ仏画の技術で弥勒菩薩、文殊菩薩などを描く飯野。日本独自にアレンジされた神のイメージである七福神が、日本化する以前の姿に遡って描かれたようでもある。

いいの・ひろあき
1970年生まれ。世界を歩き、2001年よりネパール、カトマンドゥでタンカ(チベット仏画)の修行を積む。現在カトマンドゥ、ダラムサラ、日本を拠点に仏画の制作を続ける。7月木ノ葉画廊で個展。



13 《七福神》 39.5×55.5cm 日本画画材、純金金泥など 475,200円

飯野博昭



14 《吉祥の系譜・宝船》 15.8×22.7cm (SM) アクリルガッシュ・金箔 54,000円

樋口作品のテーマは少女の幸福と成長を祈ること。吉祥の宝船文様があしらわれたアンティーク振袖を身につける少女に、幸福への願いがうかがわれる。

樋口ひろ子

ひぐち・ひろこ
現横浜美術短期大学卒。画家・イラストレーターとして活躍。グループ展・個展多数。



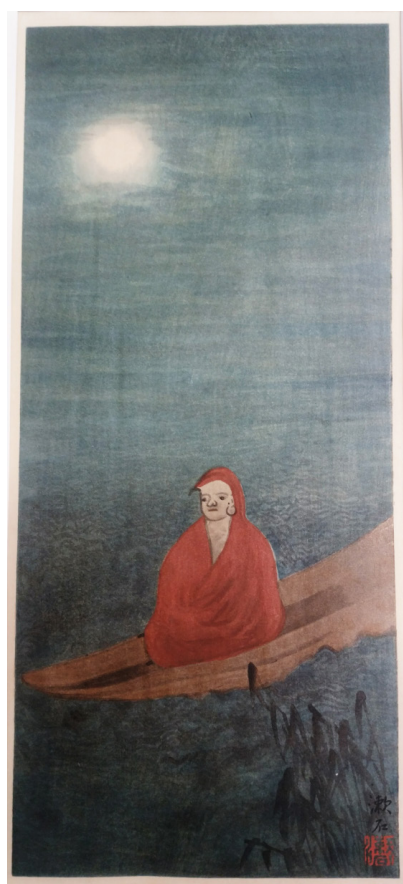
月刊美術 2019年2月号

開運アート特集にて

小室なおかさんをご紹介いただきました

夏目漱石

文豪・夏目漱石が遺した絵画の一つ。大正11年12月から大正13年9月にかけて、漱石の子息夏目純一編集により春陽堂出版から刊行された、漱石の書と水墨画を木版で復刻した遺墨集5巻の中の一冊。当時、浮世絵師として活躍していた伊上凡骨により主たる水墨画をもとに木版画が制作された。もともとは近親者に配布する目的で制作されたといわれていて、正確には何部制作されたか不明。そのうちの一点を特別に頒布。



16 《船上のだるま》
35.8×15.5cm 木版画 216,000円



七転八起の不屈の精神



15 《だるま》
40.9×27.3cm (6P) アクリルガッシュ 97,200円

小室なおか

禅宗の開祖・達磨大師は洞窟で9年間も座禅を行ったことによって手足が腐ってしまったという伝説がある。ここから手足のない形の置物が作られ、達磨大師の不屈の精神が起き上がり小法師と混同されて現在のだるまが生まれたと言われる。

こむろ・なおか
1994年生まれ。早稲田大学文学部卒。かわうそ新人賞2017月刊美術賞。2月15日～17日・アートナゴヤ出品。

吉祥アート